

「下に根を張り、上に実を結ぶ」ここには二つのことが書かれていますが、この二つのことは順序がとても大切です。上に実を結ぶために下に根を張らなくてはなりません。根という部分は目に見えない部分です。どんな木でも根は見えません。しかしその根の張り方によって、木がどのように成長し、実を結ぶか決まってきます。このことは「信仰と生活」という事に置き換えられます。信仰は目に見えないものです。人がどのような信仰を持っているか目でみれません。しかしその人がどのような生活をしているかということは目にみえます。つまりその人の生活が信仰を物がたっています。これを根と実に置き換えるなら、「信仰」が「根」であり「生活」が「実」となります。「上に実を結ぶ」実には私たちの目に入ります。いろいろな実がありますが、どれも違った実です。その実によって楽しませてもらったり、直接食べてそのおいしさを味わったりします。それに比べて根というのは、木自体の成長に必要なものです。根がなければどんな木も枯れてしまいます。根というものは自分自身を養い育てるために必要なものです。同様に「信仰」とは自分を養うために必要なものです。そして実には自分のためではなく人々に提供するためにあります。たくさん実をならせても、木自体はその実を食べることはありません。それこそ「信仰者の姿」なのです。では木が豊かな実を付けるためにどのような根を張り伸ばさなければいけないのでしょうか。①**御言葉の根です。**御言葉とはヘブル語で「トラー(教え/戒め)」です。語源は「ヤーラー(投げた物を着地するまで目で追う様)」となり右にも左にも外れる事なく、実現するまで、求める姿勢を表します。私たちの魂を養うために御言葉が必要です。②**祈りの根です。**御言葉とは神からのメッセージです。それに対して祈りは人から神への奉げものです。どちらが欠けても意味がなく、一方通行ではいけないのです。祈りの型として使徒 12：5 があります。Ⅰ誰が祈るのか…教会が祈ります。教会が祈らなくて誰が祈るのでしょうか。教会とは集う私たち 1 人ひとりです。教会は地の塩であり、とりなしの祈りは教会の使命です。Ⅱ誰に祈るのか…天地創造された唯一の神に祈るのです。人が作った偶像に祈るのではありません。Ⅲ何のために祈るのでしょうか…この時は牢屋に捕まったペテロの救いのために祈りました。目的がはっきりとした祈りは力強いので焦点を合わせて祈りましょう。Ⅳいかに祈るのか…熱心に祈ります。PUSH(Pray Until Something Happen)の祈りとは、何かがおこるまで祈り続けることです。聞かれるまで祈り続ける必要があります。Ⅴ祈りは応えられます。神のなさることは人の想像を超えたところにあります。(Ⅰコリ 2：9)5 つのポイントを踏まえて祈ることが大切です。私たちは請求書(〇〇して下さい)の祈りだけではなく領収書(聞かれた事を感謝する)の祈りも大切です。③**信仰の根です。**私たちにはできなくても神にできないことはありません。計算ができることは信仰ではありません。計算を超えたところに信仰があります。(ヘブル 11：1)この 3 つの根を張り巡らしていくと木に実がなっています。信仰者である私たちには、実のならない季節であっても実がなることを求められます。(マルコ 11：13)たとえ喜べない環境であっても喜べなければなりません。そうすることで神は豊かに祝福してください。ガラテヤ 5：22～23 には御霊の実について書かれています。愛、喜び、平安は神様に向かって結ぶ実であり、寛容、親切、善意は周りの人に向かっての実であり、誠実、柔和、自制とは自分に向かって結ぶ実です。私たち自身、津高リバーサイドチャーチとしても下に根を張り、豊かな実を結ぶ木となれるように進んでまいりましょう。